

がん治療の変遷 ～過去・現在・未来～

講師
 消化器・肝臓内科 副院長 遠藤慎治医師



【講演内容】

がんはその種類や病状の進行具合によってさまざまな治療があります。

本講演では、各種がんの基礎知識から検査（内視鏡・AI・遺伝子検査）、外科的治療（内視鏡手術・ロボット支援手術）薬物療法（抗がん剤・免疫チェックポイント阻害薬）について消化器・肝臓内科医であり、腫瘍外来を担当している遠藤慎治医師がお話しました。

これからのがん治療は「The Precision Medicine Initiative（適確な医療を適確な患者へ）」という考えの元、遺伝子・環境・ライフスタイルに関する個人ごとの違いを考慮した予防や治療法を確立することが必要であると言われていています。一方で、ネットには医学的根拠のない治療法に関する情報が溢れ、患者さんが混乱してしまっているのも事実です。

患者さんが「より良く生きるため」に治療へ臨めるよう、「治療の最終的な目標、いつまで治療を継続するのか、治療の効果がなくなったとき、どう過ごすのか」といったことを話すことも、医師と患者さんとのコミュニケーションの中で大切とお話しました。

これからも地域に寄り添ったがん治療の提供を行って参ります。

